

地盤改良、ARで可視化

一三北路生産性向上など期待

一三北路（本社・札幌）は、地盤改良含む現場にパワーブレンダーが地中で動く様子の拡張現実（AR）を実現した。ネクステラス（本社・札幌）のアプリを使って独自ARの開発を依頼。施

工イメージを共有できる利点があったほか、発注者への説明でも好評だったという。デジタル技術による現場の見える化は、現場内外でのコミュニケーション円滑化や生産性向上につながると期待される。

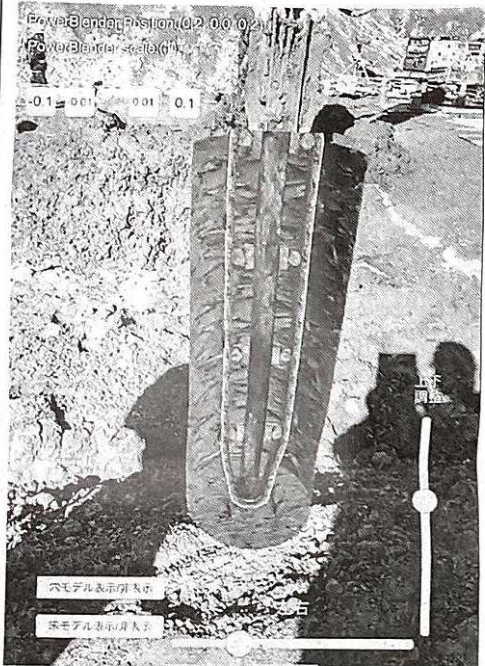
一三北路は、このほど竣工検査が完了した札幌市発注の里塚中央ほぶ

ら公園の災害復旧で、ネクステラスのアプリ「TraceAR」を導入。iPadなどで映した現場風景に、資材や重機の3Dモデルを重ねて表示できるアプリで、現場の施工計画や簡易的な計測に役立つ。地中など不可視部分を可視化できる点も特長だ。

地盤改良では、地表の

見た目から改良範囲を見分けるのが難しい。そこで改良範囲の地表面や地盤面下をARで可視化。現場での施工イメージ共有や改良範囲を示す白線が見えにくくなったときの作業判断に役立った。

パワーブレンダー



が地中で土を上下にかき回す様子のARも同時に実現。発案した現場代理人の藤田良輔主任は「パワーブレンダー工法は比較的珍しく、イメージを持ちにくい。現場や発注者、住民への説明に役立つのではないかと考えた」と振り返る。

現場でのイメージ共有にとどまらず、市職員からも施工内容が分かりやすいと好評だった。また、不可視作業の可視化には、技術者の安全性を高めるなどの効果も期待できる。

一三北路は札幌市発注の汚泥圧送管新設でもアプリを導入するなどAR活用を進める。藤田主任は「今回はイメージ共有がARの主眼だった。将来的には地中のアームの正確な深度管理や、地中インフラの維持管理などにも活用範囲が発展すればおもしろい」と期待を寄せる。